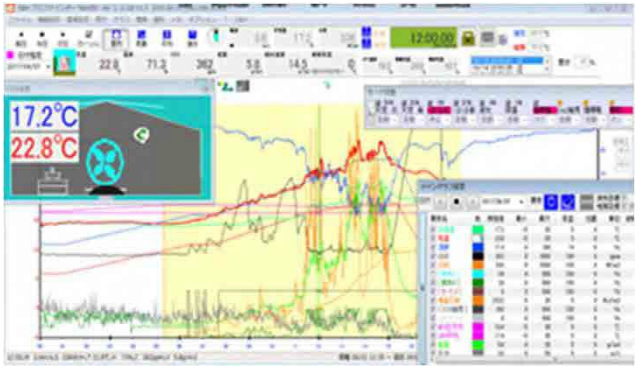
施設園芸　統合環境制御盤の導入によるイチゴの収量・品質向上　【68】

取組主体の概要

・所在地：福島県須賀川市
・取組主体名：ふくしまから　はじめよう。攻めの農業技術革新すかがわ岩瀬地域協議会
・栽培作物・作付面積：イチゴ・22ａ　（令和５年現在）

導入技術

・プロファインダーⅢ（(株)誠和。製）
　→環境測定機器
・プロファインダーNEXT80（(株)誠和。製）
　→統合環境制御盤



←統合環境制御技術のデータ画面

統合環境制御技術による単収増加↓

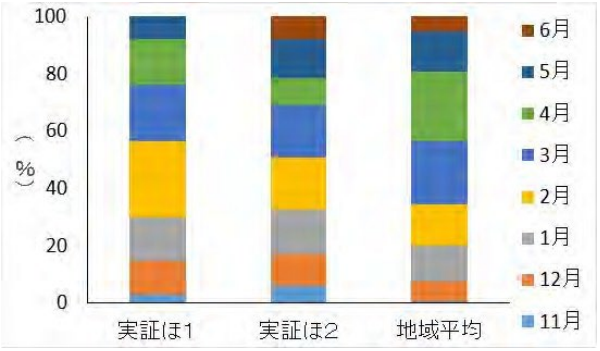
単収（kg/10a）	H26年実証開始前		H28年実証2年目	実証前対比（%）
実証ほ①	4,500		4,972	110
実証ほ②	4,200		5,645	134

導入経緯

○ 当地域のイチゴ栽培は、手動での環境制御を行ってきたが、最適な環境維持のための各種装置の手動による制御には限界を感じていた。
○　そこで、さらなる品質・収量の向上及び省力化を図るため、平成27年に統合環境制御盤を導入した。

取組の特徴・効果

○ 地域平均と比べ、収量が1.1～1.3倍程度増加。
○ 特に、１～２月の収量が上がることで、時期による収量の変動が少なくなった。
○ 施設内の湿度等の環境が的確に制御されることで病害の発生が減少した。
○ 果実品質が向上（大玉化）し、品質のばらつきが減った。
○　データを活用することで、単収向上のための新技術の導入が短期間に進んだ。



←総収量に対する月別収量の割合